1．会合名	自主規制規則のあり方に関する検討懇談会（第5回） 議事要旨
2．日時	平成22年4月16日(金)午後1時00分～午後2時30分
3．議案	これまでの議論の整理について
4．主な内容	<p>これまでの議論の整理について</p> <p>事務局より、これまでの議論の概要について説明が行われた後、意見交換が行われた（別添「資料」参照）。</p> <p>（主な意見等）</p> <p>(1) 配付資料に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「利用者」という言葉の概念が曖昧なので明確にした方がよいのではないかと。 <li style="padding-left: 2em;">明確化するよう修正したい。 ・ これまでの議論を整理しているということであるが、この資料の表現振りでは、本懇談会委員の総意が書かれているとは思えない。 <li style="padding-left: 2em;">この資料に挙がっている意見について、異なる見方があるというところはぜひ御指摘をいただきたい。 ・ 全体的なトーンとして、行政等との対立的な見方がベースになっている部分もあるが、議論としては必ずしもそうではないのではないかと。 <p>(2) 自主規制の意義・役割について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主規制のメリットと言われてきたのは、作ったルールを解釈するのも自主規制機関であるし、それから違反があったかどうかを発見して摘発し、場合によっては処分するという、エンフォースメントなどであり、その全般にわたって自主規制機関の意義があると思う。 ・ ルール・ベースではなくてプリンシプル・ベースというのは、考え方としては非常によく分かるが、具体的に業務遂行上、一番気になるのは、プリンシプル・ベースの場合に、本当に自分が守っているかどうかということが、複雑な業務になればなるほど分からなくなってしまうことがあると思われるので、その点をどうしたらよいのかということも十分考慮していただきたい。 ・ 自主規制機関のあり方として、もちろん規制は無い方がよいが、仮に規制を行う場合でも、規制のあり方として、まずは自主規制で対応するということではできないものかと思う。もちろん大事なところは、法令から外せないと思うが、いきなり法令で色々と規制するよりも、柔軟性や機動性という性格がある自主規制の方が馴染むのではないかと思う。今ある金融庁の色々な規制はなるべく自主規制に委譲してほしいということを考えるべきではない

	<p>かと思う。同じように、ルール・メイキングだけではなく、監査についても、なるべく協会が行った方が比較的機動的にできるのではないかと考えているので、役割を協会に委譲してもらうことはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法令で規制を決めてしまうと、それを撤回するのは、かなりの時間等が必要であり、例えば、監査などは、やはり自主規制団体で行うというのがマッチするのではないかと思う。一方で、非常に大きな権限を自主規制に与えるということは、逆に言うと自らを律する体制を担保しておかなくてはならない。 <p>(3) プリンシプルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プリンシプルというのは、日本ではルールの補足であるというのが適切な姿ではないか。 <p>(4) ガバナンスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状でも、規制の制定プロセスの透明性はかなり高いと思うので、その点をはっきりと記載すべきではないか。 ・ 自主規制規則をうまく機能させるためには、ガバナンスのあり方が根底にあると思う。 ・ 協会のガバナンス体制やコンプライアンス体制など、外部から見たときに、きちんと公平性のある的確な判断がなされていることを担保するような組織や仕組みは、やはりどうしても必要だろうと思う。 <p>(5) 自主規制機関（協会）への強制加入について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協会への強制加入の議論は、ここで結論を出すにはとても重い問題であるが、どのような問題点があるかということ議論することは必要である。 ・ 強制加入について、一体どう考えるのかということ真剣に議論する必要があると思う。 ・ 現状は、協会への加入は義務ではないが、そうすると、協会に加入していることによって、利用者に対してPRになるというメリットがないと、加入する意味がないのではないか。 ・ 強制加入にすることが望ましいということについて、全国的な理解を得る必要があるのではないか。 ・ ある程度、地域的な整合性があるか、あるいは、業務を適切に遂行するための人員が確保されているか、といったような一定のレベルに達している会社しか協会員として認めないという形を採ることによって、協会に加入している会社は大丈夫だというイメージを作っていく方策を検討できないだろうか。
--	--

	<p>(6) 対外的なアピールやディスクロージャー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政とのカウンターパートとしてというよりも、協会として一体何を目的にしてどうするのかというメッセージが十分ではないように思う。 ・ 協会に加入していることや、協会員が努力していることがなかなか消費者には分からないのではないか。やはり、協会に加入しているので消費者は規制の対象として保護される、あっせんセンター等を利用できるなどのアピールをしっかりと行い、協会に加入している事業者でなければ取引したくないというような仕組みを考えていただきたい。 ・ 「情報発信」や「コミュニケーション」という意味も含んでいるが、「ディスクロージャー」という項目を設ける必要があるのではないかと思う。これは、理論的には、自主規制がうまく機能するためには、やはり、ある程度同質性が必要だということも言われているが、もう一つ、自主規制が機能するための必須の要件というのは、ディスクローズである。何を行っているのか分からないということは、信頼できないということであると思うので、開示についての項目は別立てにして記載してはどうか。 ・ ディスクローズというのは、非常に牽制作用があるので、一般の人が見てわかりやすいようにするため、そのあり方を検討してもよいのではないか。 <p>(7) 日証協ホームページについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新着情報のメール配信サービスを行う仕組みは便利だと思うが、日証協のホームページについて、そのような機能はあるか。 現状ではそのような仕組みはない。 ・ ホームページに、プレスリリースや新着情報が少ないように思う。全銀協等でも、メルマガに登録すると、新着情報等を送ってくれるという形で、わざわざこちらからホームページにアクセスしなくても、何かポイントになるものは簡潔なテキストデータだけでも送られてくる。日証協でも、工夫をしていただきたい。 ・ メール配信サービスを行う場合には、やはり読みたくなるようなわかりやすいメッセージのものにしていただければと思う。 ・ 日証協とFINRAとのホームページを比較すると、「インベスター・アラート」については日証協の方が発展途上だと思う。今後、積極的に活用すべきだと考える。
5 . その他	本議事要旨は暫定版であり、今後、内容が一部変更される可能性があります。
6 . 本件に関する 問い合わせ先	自主規制企画部 (0 3 - 3 6 6 7 - 8 4 7 0)